

【学生による ESD 学習支援】

奈良市富雄第三小中学校 第6回ユネスコ委員会 支援報告書

英語教育専修 4回生 森本 珠美怜

社会科教育専修 1回生 足立 繁郁

1. 実施日 平成30年10月17日(水)
2. 場所 奈良市富雄第三小中学校
3. 参加者 森本珠美怜(学部4回生)、足立繁郁(学部1回生)
奈良市富雄第三小中学校 教員、児童 複数名
4. 活動支援内容

平成30年10月17日、奈良市富雄第三小中学校にて第6回ユネスコ委員会が行われた。今回は、国際交流班とビオトープ調査班とで分かれ、活動を行った。国際交流班では、今月行われるハロウィンパーティーに向けて役割分担を行うなど、準備を進めた。また、ビオトープ調査班では、ビオトープのポスターを制作するグループと8月に行った、かいぼりをまとめたパワーポイントを制作するグループに分かれて活動した。

今回の活動支援より、以下の2点について考えた。第1に子ども主体で委員会活動を行う重要性について、第2に子どもの柔軟な発想についてだ。

第1の子ども主体で委員会活動を行う重要性についてである。今回は主に、ハロウィンパーティーに向けた準備が行われた。広報活動について子どもたちから提案が飛び交うなど、積極的に関わろうとする姿勢が見られた。しかし役割分担を行う中では、誰の手も挙がらない役割もあった。その時、子ども同士で「こういうの得意じゃなかった？」などと推薦し合い、上手く役割分担を進めていた。やはり、教員が指名して役割を勧めるよりも子ども同士で推薦し合えると、子どもたちも気持ちよく仕事を行うことができるように感じた。また、このように子どもたち主体で委員会活動を行うには、学年を超えた子どもたちの交流が必要だと感じた。ユネスコ委員会では、今回の役割分担も学年を超えて行われており、子どもたちが協力し合える関係にあると感じた。



ハロウィンパーティーに向けた準備



前方は発表の準備 後方はポスター作成

第2に、子どもの柔軟な発想についてである。一人一人がポスター制作に取り組んでおり、とても斬新でインパクトがあるものばかりだった。子どもたちの柔軟で斬新な発想を見て、私も固定観念にとらわれない発想で物事を考えていきたいと感じた。

以上のことについて、今回の支援を通して感じる事ができた。これからも継続して支援を行う中で、子どもたちとの関わり方について高めていきたい。また、子どもたちの行動や言動から気づいた点を吸収し、自分自身に還元していきたいと感じた。